

令和5年度 社会福祉法人浄山会 事業報告

総括

法人運営におきましては、令和5年6月に任期満了による役員（理事・監事）の改選、9月に前理事長死亡退任による新理事長の選任、令和6年3月から4月にかけて役員（理事・監事）の補選を行いました。

施設運営におきましては、令和2年の発生から3年以上にもわたり生命を脅かされ生活に制限を強いられてきた新型コロナウイルス感染症について、令和5年5月に感染症分類が2類から5類へ変更されたことにより、その後どのような経緯を辿るのかといった点が年度当初の最大の関心事でありました。結果として、感染者数の全数把握・マスク着用義務・行動制限等が解除され人の移動や生活様式がコロナ前に戻ることによって高齢者の感染リスクが高まるのではとの懸念が的中し、当苑において最も多く感染が発生した年度となり、1つの感染例から5例以上の感染に広がるクラスター感染を始めて経験することとなりました。なお、令和5年度内にクラスター感染が3回あり、そのうち8月から9月にかけての26名の感染（入居者17名、職員9名）が最も広がったケースでありました。感染された方の療養と他ご入居者の生活を、限られた職員により支援・維持することに大変苦慮しましたが、医療サポートチームの派遣協力を得て、1ヵ月弱の期間をもって収束に至りました。一方で、5類移行後の制限緩和としまして、一定の制限を設けたうえではありますが10月から居室面会を再開いたしました。今後は、ご家族との外出・外泊、外出レクリエーション、サークル活動、ボランティア・実習受け入れ、地域交流についても、感染対策とのバランスを見極めたうえで再開のタイミングを計って参りたいと思います。

積年の課題であります職員の確保・定着については、令和5年度にも一定数の離職があり厳しい状況が続いています。職員の満足度を向上させるための取り組みとして、有給休暇取得促進、超過勤務削減、福利厚生の実質化等を図るとともに、外国人材についても可能な限り早い段階に受け入れを開始できるよう準備を進めて参ります。

収支につきましては、今年度は全体で黒字収支となりましたが、依然として稼働率が低水準であること、人件費が抑制された要因は予定外の人員減少（離職）であること、今年度受けたコロナ関連・物価高騰関連の補助金は時限的なものであること、今後あらゆる固定費が高騰していくこと等を念頭に置く必要があり、今後より一層、収支の適正化・効率化を図っていかねばなりません。

その他、介護報酬改定により整備等が必要とされていた内容のうち、業務継続計画（自然災害）を令和5年度に策定いたしました。この度策定しました計画をベースに、いずれ必ず起こる大災害に備え、今後も必要に応じた見直しを加えブラッシュアップを重ねて参りたいと思います。また、令和6年度介護報酬改定において新たに実施・取組が必要となった運営事項についても計画性を持って進めて参ります。

以上を令和5年度事業の総括とし、次ページ以降において個々の事業・取組の遂行を記載いたします。

個別報告

I より良い介護の実践

1 安心できる生活を

感染症分類が変更されてから1年が経ち、世間にはコロナ禍が終焉を迎えた空気感があるが、当苑においてはコロナ禍以来はじめてクラスター感染を経験するなど、この1年の感染者がもっとも多く対応に追われる年となった。苑内で感染となられた大半の方が軽症で軽快されたなか1名の方がコロナ感染判明当日に急変されお亡くなりになられたことから、5類感染症となった今もなお、高齢者や基礎疾患をお持ちの方にとっては依然として重症化リスクが高く感染力の強い感染症であることを再認識し、今後も特に流行期においては警戒を解くことなく感染症対策に努めたい。

一方で、新型コロナウイルス感染のリスクの認識において、世間一般と医療・介護従事者との間に大きなギャップが生じており、現在当苑の緩和対応として居室での面会を再開しているが、今後においては外出・レクリエーション等、コロナ禍以前の生活を取り戻すべく感染対応を継続しながらそのギャップを埋めていく視点も必要である。

2 入居者の尊厳を尊重したケアプランの作成

要因解析、事前調査内容、生活の継続性及び生活の質を尊重した入居者およびご家族の意思に基づくケアプランの作成を行うことができた。

3 医療的ケアの実施

- (1) 主に食事・移動に関する個々の疾患に付随する注意点も含め、介護職員に対する医療的知識の提供を積極的に行うことができた。リスクマネジメントの面では、原因不明の骨折となった事故事例もあったことから、今後に向けて疾患・年齢・性別からの事故への発展リスクも含めた予測力を養っていく必要がある。
- (2) 職種間の円滑な連携を心掛けることで、重篤な事故等なく、安全で苦痛の少ない医療行為を提供することができた。
- (3) コロナの影響からも外部研修への参加が困難であった。医療的知識を多職種へ適切に提供するにあたり、医療職の質の向上・底上げを図るべく、次年度は積極的な研修参加を通じ知識・技術の向上に努めたい。

4 感染予防医療と衛生管理の充実

- (1) 食中毒・感染症の予防については、施設内研修を通じて理解を深め、日常生活における衛生管理の徹底と発生予防に努めた。
- (2) インフルエンザ・ノロウイルスおよび新型コロナウイルスの流行状況や関連情報等について、リスクマネジメント委員会・衛生委員会において情報収集し、全職員へ周知・共有することにより、施設の感染予防対策に活用することができた。

- (3) 感染予防マニュアルを担当する委員会（リスクマネジメント・医療的ケア委員会）で随時見直しを行い、適切な予防対策を行えた。
- (4) 各種感染症（特に新型コロナウイルス）の感染予防については、毎日の施設内消毒、職員の手洗い、うがい、手指消毒、マスク・ゴーグル（フェイスシールド）の着用、検温実施を徹底し、感染源の持ち込みの防止に努めることができた。
- (5) 施設内感染が認められた場合においては、感染拡大を最小限に抑えるため、行政指導、感染予防指針・マニュアルに沿った対応を行うことができた。なお、施設内感染への対応を通して、標準予防策の重要性等の意識向上、個人防護具の着脱・ゾーニングの手法の定着に繋がった。
- (6) 令和5年度の当苑における感染症の発生状況は下記のとおりとなった。

【新型コロナウイルス感染】	入居者：29名	職員：23名
【インフルエンザウイルス感染】	入居者：0名	職員：4名
【食中毒（ノロウイルス等）】	入居者：0名	職員：0名
【疥癬】	入居者：3名	職員：0名

II 看取り介護の充実

1 尊厳を大切にした看取り介護の支援

ご逝去による退居が6名と例年より少ない中で、令和5年度は2名の方に看取り介護を提供することができた。その2名の方に対しての看取り介護での気づき・反省・成果を今後に生かせるような心掛けをもって指導・教育を行った。

家族への支援と配慮では、面会の機会等にその時々のご状態をリアルタイムに報告することに努め、いずれの看取り介護も大きな認識の相違なく進められた一方、統一的な支援の点では、日々変化が起こる中で職員間の連携不足から家族の混乱を招くこともあり、連携強化につながる新たな試みの構築も検討していく必要がある。また、看取りの同意書を受けて初めて看取り介護を意識するのではなく、ご入居された段階から、いずれ迎えられる終末期に向けての関わりを意識し、日々の支援の延長に看取り介護があるといった認識を共通で持つ必要性も感じた。最期を迎えられる時まで、その人らしさを維持すること、QOLの低下を防止すること、苦痛を緩和すること、看取りの始点をどこに置くのか、最期を迎えられる直前になってからでは支援に限りがあること等、認識を変革していく必要がある。

III 個人に適した食事の提供

日々の食事の様子を観察し、適正な食事形態の見直しと食事内容について他部署を含め検討し改善することができた。看取り介護においては、入居者の状態に応じて無理のない食事提供・介助を心がけ、他部署との連携も行った。

IV 地域社会とのつながり

1 地域社会とのつながり

コロナ禍の非日常を取り戻したかのように社会は活性化しており、我々をはじめとする介護・医療従事者は世間から取り残されている感は否めず、5類移行後も感染対策を大きく緩和することができないままの1年であった。地域活動も通常化しているにあたり、感染対策とのバランスを取りつつ、地域社会・活動への参加・協同と両立できる方法を模索したい。

2 ボランティアの受入

今年度も一年を通して屋内でのボランティア活動の受け入れを中止せざるを得なかったが、ボランティア団体・個人よりビデオレター・手紙・花をいただいた。屋外での園芸などの活動は継続して行っていただくことができた。

3 実習生の受入について

今年度も新型コロナウイルス感染対策により、管理栄養士・栄養士実習や介護等体験のほか、すべての実習についての受け入れは見送ることとなった。

V 施設サービスの質の向上に向けての取り組み

施設サービスの質の向上および適正化を図るため、下記の施設サービスに対する客観的な評価を受け、今後の施設運営にあたって参考となる意見等を得ることができた。

- (1) 満足度調査の実施（ご入居者・ご家族）

VI 人材確保・育成・定着に向けての取り組み

職員の採用・育成・定着に関する取り組みについて、「きょうと福祉人材育成認証制度」の基準・要件を包括しつつ、以下内容を実施した。

1 採用

- (1) 計15名を採用（正職員5名、契約職員1名、パート職員0名、派遣職員9名）
- (2) 契約職員1名、パート職員1名、計2名を正職員へ雇用転換

2 育成

施設の職員育成計画に基づき、下記研修を実施した。

- (1) 新入職員研修（入職時の1日研修） 計 2回
- (2) 施設内研修（月別の研修テーマで月1回実施） 計12回

(3) 全体研修（人権擁護・身体拘束適正化のための研修）	計	2回
(4) 全体研修（感染症及び食中毒の予防のための研修）	計	2回
(5) 全体研修（事故発生防止のための研修）	計	2回
(6) 外部研修		
①感染症関連（オンライン）	計	2回
②虐待防止関連（オンライン）	計	1回
③口腔ケア関連（オンライン）	計	1回
④ユニットリーダー研修（オンライン・実地）	各	1回
⑤認知症介護基礎研修（オンライン）	計	2回

3 定着

職員の定着に資するよう、下記取組を実施した。

- (1) 職員満足度アンケート
- (2) 処遇改善の実施（介護職員処遇改善支援補助金による手当の増額）
- (3) きょうと福祉人材育成認証制度 認証停止解除

4 課題

- (1) 令和5年度は入職者15名、退職者25名（正職員8名、契約職員1名、パート職員2名、派遣職員14名）で退職に対し補充が間に合っていない状況である。
- (2) 労働生産人口が大幅に減少しているうえ介護職への求職者が極めて少ないなか、貴重な入職者をどのように教育・指導し定着に繋げていくか、また、採用活動の費用対効果を効率化させるためにも、新入職員の受け入れ体制の改善を具体的に行う必要がある。

VII 収支状況

1 収入

新型コロナウイルス流行以降、低水準が続いていた入居稼働率について、令和5年度は回復を図るべく目標稼働率を94%としていたが、年度を通して入居者および職員の新型コロナウイルスの感染が断続的に発生（うち、クラスター感染3回）したことなどから、新入居の受け入れを計画通り進めることができず89.8%に留まった。

一方で、今年度は、物価・食材高騰に対する補助金、新型コロナウイルス感染症者の施設内療養・感染対応に対する補助金をまとまって受給したことなどにより、前年度との比較では収支差額はやや改善となった。

2 支出

前年度との比較では、職員数が減少したことによる人件費の減少と昨年度にLED照明を導入したこと等による水道光熱費の減少を主な理由として、全体では支出減となっ

たが、人件費の減少の背景にはマンパワー不足の問題があること、消耗品価格や取引業者との契約価格は増加傾向にあることを念頭に置く必要がある。

VIII 災害・感染症への対応力の強化

災害・感染症が発生した場合に備えての備蓄品（感染対策用品）については一定維持することができた。また、法定により令和5年度末までに策定・実施が必要な事業・業務継続計画（BCP）の策定については、業務継続計画（自然災害）を策定した。

IX 新型コロナウイルスへの対応

1 職員が実施する基本対策

- (1) 手洗い、うがい、手指消毒
- (2) 共用部の次亜塩素酸ナトリウム消毒
- (3) マスク着用、毎日の検温および行動記録
- (4) 三密回避（時差休憩）、換気
- (5) 職員抗原検査（随時）
- (6) ワクチン接種（6・7回目）

2 面会

以下面会を実施。※ただし、苑内感染発生期間は中止

- (1) 居室面会（制限付き）
- (2) ベランダ面会
- (3) オンライン面会（LINEアプリ使用）

令和5年度 入退居の状況

定員 70名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	医療機関			1									
	在宅	1	1		2				1				
	介護施設							2		1			
	その他		1										
	計	1	2	1	2			2	1	1			
退居者数	医療機関						1						
	在宅												
	介護施設												
	死亡					1		2	1	1			1
	その他												
計					1	1	2	1	1			1	
利用者数	要介護1												
	要介護2												
	要介護3	22	24	23	23	23	22	22	22	21	21	21	21
	要介護4	25	25	26	26	26	27	27	27	28	28	29	28
	要介護5	15	15	16	17	16	15	17	17	17	15	14	14
	計	62	64	65	66	65	64	66	66	66	64	64	63
	月別平均要介護度	3.89	3.86	3.89	3.91	3.89	3.89	3.92	3.92	3.94	3.91	3.89	3.89
ベッド利用延日数	1,825	1,930	1,911	2,036	1,998	1,893	1,972	1,888	1,972	1,910	1,769	1,906	
月別利用可能延日数	2,100	2,170	2,100	2,170	2,170	2,100	2,170	2,100	2,170	2,170	2,030	2,170	
ベッド稼働率	86.9	88.9	91.0	93.8	92.1	90.1	90.9	89.9	90.9	88.0	87.1	87.8	

※ベッド利用延日数は、利用可能延日数から空室日数及び入院外泊時日数を差し引いたものである。

年間実績

入居者合計	10人
退居者合計	7人
平均要介護度	3.90
平均ベッド稼働率	89.8%

要介護度別年間人数

要介護度1	0.0人
要介護度2	0.0人
要介護度3	22.1人
要介護度4	26.8人
要介護度5	15.7人

令和5年度 行事・活動報告

*施設全体行事
 令和5年7月28日 前期消防訓練
 令和5年7月31日 孟蘭盆法要
 令和5年9月18日 敬老表彰
 令和5年11月2日 月華祭 職員永年勤続表彰
 令和5年12月29日 後期消防訓練

*主なユニット行事
 4月 花見
 5月 母の日
 6月 父の日
 7月 七夕
 11月 紅葉狩
 12月 クリスマス
 1月 書初め
 2月 節分
 3月 雑祭

*ボランティアによるレクリエーション活動

新型コロナウイルス感染防止の観点より年度を通じて受け入れ停止